

SHINGON HORONIC

色 は 勾 へ ど II

IRO

WA

NIO

E

DO



特集 寺子屋童子回想法

平成十七年文月 第一卷

青葉祭りとゆずり葉

青葉繁る季節は常緑樹の落葉の季節です。緑深い青葉が落ちることで、新しい葉が育つことができます。

それによつて木は大木大樹へと成長します。古い葉がいつまでも木にしがみつけば、いつか木は枯れて倒れます。

正月にゆずり葉を飾る日本の習慣は代々受け継がれることの尊さを教えています。弘法大師様も興教大師様もこの新緑の季節のお生まれです。

歴史の大きな転換点で登場されました。



寺子屋回童子想法

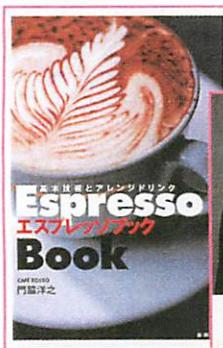


ジャータカ物語 黒牛カラカ 9

3



道しるべ 境界をこえて



お大師さまの言葉

11



情報コーナー

14

寺子屋回童子想法
道しるべ 境界をこえて
お大師さまの言葉
3
11
13
14

寺子屋とは

江戸時代日本の人口は約三千万人です。江戸の人口は百万人。当時世界最大の都市です。

江戸時代日本人の識字率は九割を大きくこえっていました。支配階級の武士だけではなく、商人、職人、農民、漁師まで字を学んでいました。

寺子屋という素晴らしい教育制度が日本中に拡がっていました。

基本科目は読み書きそろばんです。

読むのはまず『実語教』です。弘法大師作といわれ、鎌倉時代には日本中に広まつた、日本のモラルの規範です。読むのは全て音読で暗記をしていきます。

書くのは『いろはにほへと』で仮名からはじまります。

『いろはにほへと』にも深い仏教の教えが秘められています。そろばんは数学です。日本の数学は和算といって高度な世界を構築していました。



江戸時代の実語教



回想法とはなにか

回想法は高齢者への心理療法という。長い年月を重ねた高齢者が、自らの過去の様々な事象をカウンセラーと共に、ゆっくりと、繙いていく。

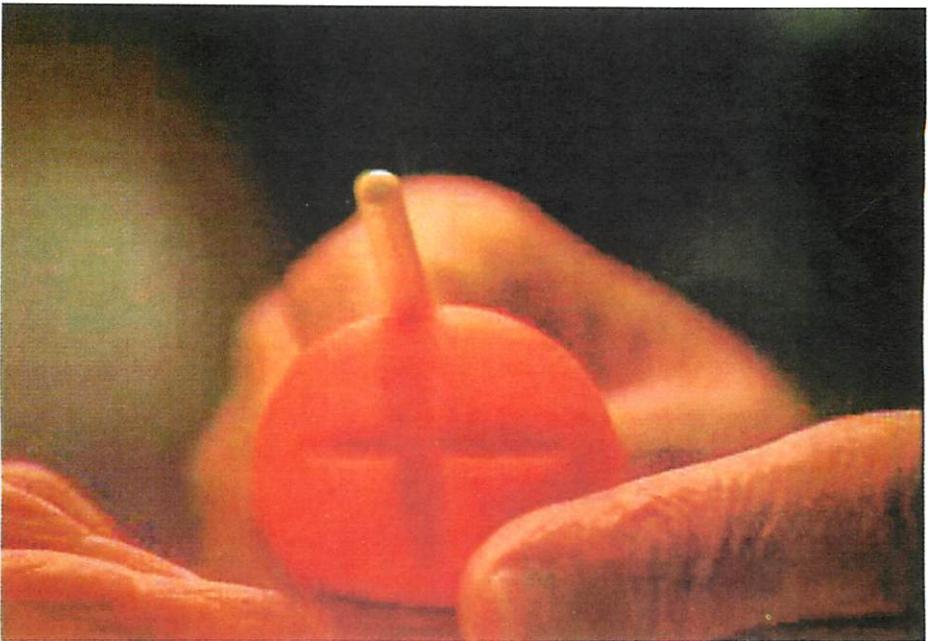
核家族が当たり前になり、少子化で子供の数は激減していく中で、高齢者は孤独感を深めていく。社会は加速度的に進化していくようにも見える。コンピュータ社会、高度情報社会。高齢者でなくともついていけない。

老人ホームやケアセンターが充実してはきたが、若者や子供達と切り離された生活が幸福なのか。

黒川由起子先生は回想法のスペシャリスト。慶成会老人学研究所を設立。黒川先生は高齢者とのカウンセリングの中で、高齢者の深い経験は必ず社会に役に立てると言えました。高齢者の経験を今の若者や子供達に聞かせる機会があれば、断絶した世代が交流できる素晴らしい場が生まれると思いました。



高齢者、中年、若者が語り合う円座。



「虎屋」の全面的な協力で和菓子作りが指導され、綺麗な季節感溢れる和菓子が作られていきます。

寺子屋童子回想法とは

寺子屋回想法は二回行われました。初めは高齢者と中年、そして若者です。予定した時間を大きくこえて和氣あいあい、終わらせるのが惜しいほどいい雰囲気でした。

一回目の成功で再び開くことになりました。今度は幼い子供達も参加します。

今回は三世代がすべて対等の作業をする。

全員が共同で和菓子を作る。

作ったお菓子を法要の中で全員が手渡しで本尊様にお供えする。

法要が終わつたら、そのお菓子でお茶会をする。お茶もお互いに点てる。

高齢者は子供に。子供は大人に。子供同士で。大人同士で。

みな真剣ですがとても楽しいので自然な笑顔が会場に咲きました。



色とりどり大小様々ですが心を込めた和菓子が並びます。

共同作業の楽しさ

物を作ると時間を忘れます。手を動かし工夫して創造する喜びを知ると、自然と笑顔がこぼれます。

その作業もグループでするともっと楽しくなります。

各グループは必ず高齢者、若者、子供達の編成グループです。一緒に作ると仲間意識が生まれます。思わず他のグループとお菓子に出来栄を競つたりします。それもまた楽しい笑いを誘います。



手作りのお菓子を供える法要とお献茶

供養の心

仏教は生け贋がない宗教です。

供養といいます。

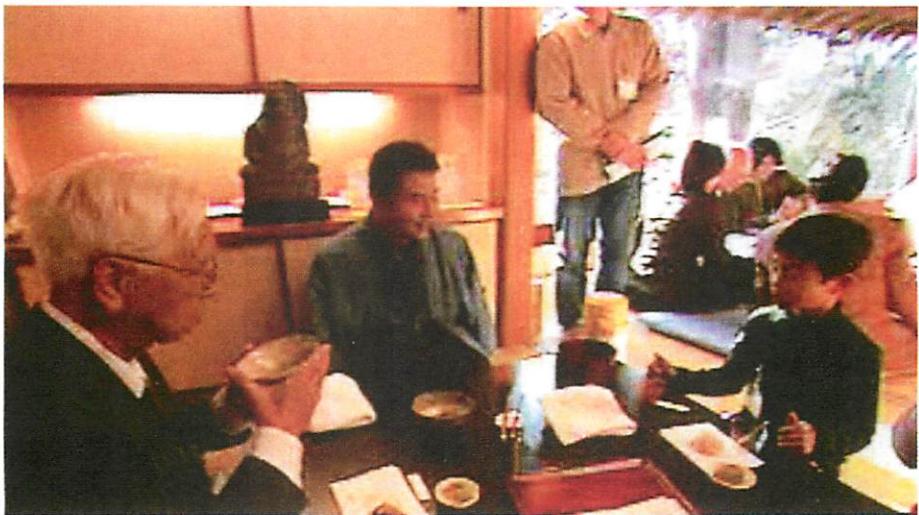
供養は一方的ではありません。

相互供養といって、必ずお互いに供養が廻りめぐります。供養した側にも供養された側から供養が返ってきます。

生かし生かされる。尽くし尽くされる。

今回は武者小路千家若宗匠の御協力でお献茶式が行われました。

子供達はもちろん、高齢の方も初めて拝見する人も多く、美しいお点前に感動していました。



子供の意見に思わず微笑みがこぼれます。

和の時、輪の語らい

とても緊張した法要が終わると、いよいよ自分達で作り、お供えしたお菓子でお茶会です。

お抹茶をいたたくのも初めての子供も、お点前に挑戦です。

各グループに武者小路千家の社中の方が入つて、親切にお茶の点て方、飲み方まで習えます。

「僕の作ったお菓子美味しいよ!」「思ったより美味しい!」「匂いがいい!」「泡がたつた!」あちこちで初体験のお茶に歓声があがります。

年齢を超えて場が一つになりました。

初めはどうなることかと思つた寺子屋童子回想法。お開きにするのが惜しいほど、全員が楽しめた一時でした。

高齢者はテレビでしか知らなかつた若者とは違う、今の若者たちと実際に触れあって日本の将来に安心したと言います。子供たちはもつともつとおじいさん、おばあさんの話を聞きたかつたといいます。

多くの方の協力で大成功の会でした。

深謝合掌

ジャータ物語り 黒牛カーラカ

繪 美香



お婆さんはいつも独りだったので、子牛をとても可愛がり、カーラカと名付けました。

菩薩様はある時、インドの北の街に黒牛となつて生まれました。

まだ子牛のころ、貧しい商人と旅をしていました。激しい嵐の日、商人はある老婆の宿の前に足を止めました。

商人は泊まるお金を持つていませんでした。

しかし物音に気がついたお婆さんは、商人を泊めてあげたばかりか、美味しいごちそうを作つてあげました。

子牛も中に入れ、ずぶぬれの体をていねいに拭いて餌をたくさんやりました。

次の晴れた朝、商人はお礼のかわりに子牛を、お婆さんに差し上げました。

その時、子供が一人川に落ちました。
カーラカはさつと飛び込むやいなや、子供を角で救い上げ岸に運びました。

これを見ていた商人は考えました。この黒牛なら川を渡れるかもしれない。商人はカーラカにいいました。
「この荷車を川を渡してくれたら、荷車一台につき金貨を一枚やろう。」

カーラカは最近お婆さんが働けないのを知っていました。お婆さんを助けるためにカーラカは荷車を運びます。

あつと言葉間に五百台の荷車を川向こうへ渡しました。

あまり簡単に運んだので商人は金貨が惜しくなりました。
「約束の半分だけでも牛には分かるまい。」





商人は金貨を五百枚だけカーラカに渡しました。

カーラカは荷車の前に立ちはだかって一步も動きません。

商人は自分の心の浅ましさを見抜かれたようでも恥ずかしくなりました。

商人はあらためて金貨を約束の通り千枚カーラカに渡しました。

それを見ていた子供達も大喜び。

カーラカはお婆さんに金貨を渡しました。

お婆さんは金貨を合掌して受け取りました。

「でもねカーラカ、私はお金なんかはいいんだよ。お前がそばにいてくれるだけで。それが一番の幸せさ。」

それからもお婆さんとカーラカは本当の親子のように仲良く暮らしました。

道するべ

日本とアジア

日本とアジアの関係がより濃く緊密になればと思います。

しかし最近は中国の反日暴動や、韓国の竹島への領有権主張など将来への不安材料が増えています。

私は昭和五十三年に中国を訪れました。

日本佛教友好協会のツアーワークとしてです。

その当時の中国旅行には全線随行の通訳がありました。

周恩来氏によく似た風貌のとても立派な人でした。

六十歳過ぎの年輩の方でした。

彼は「戦争という不幸な時代もあった。しかしそれは過去の事。これからは中国と日本が手を携えて行きましょう。いつまでも過去を見ていても、発展はありません。未来に目を向けてましょう。」と何度もくり返していました。

今春の一万人規模の反日デモがくり返されました。しかしデモに参加した人数よりも、反日デモへの不参加を呼び掛けた百万通の電子メールがあったことを忘れてはいけません。

ヨーヨーマという音楽家の名前は大変有名ですかから、多くの人が彼の事を知っていると思います。



YO-YO MA
THE SILK ROAD ENSEMBLE
SONY MUSIC ENTERTAINMENT

さて日本とアメリカの関係もイラク紛争から大きな転換期に入りました。イラクへの自衛隊派遣と、その期間のなし崩し的延長は誰も説明できません。

カナダはアメリカの同盟国です。国境を接し、政治だけではなく経済的にも文化的にも非常に緊密な関係があります。

その緊密さはもちろん日本以上です。



米国の言いなりにならない
知られざる「豊かな大国」!!

経済的規模は東京並レベルで対米貿易が活況。
しかし対米従属ではない自主外交、政治、教育、医療……、アメリカ庭田・日本の手本はカナダにあつた!

講談社新書 価格1,200円(税込) あたま書店・amazon・楽天・書々・蔦屋

誰も知らない賢い国カナダ
桜田大造著 講談社新書

中国人の両親を持ち、パリで生まれ、アメリカの大学を卒業した、もつとも成功したチエロ奏者です。しかし彼は現状に満足することなく常に新しい試みに挑戦しています。

彼の新しいCDは、アジア全域の音楽の素晴らしさを再発見し、同時にアジア全域に流れる文化の源流に人々を誘います。音楽を通じてアジアの素晴らしい未来が予感できるアルバムです。

しかしそのカナダはイラクに軍隊を派遣しないません。このことは日本のマスコミではほとんど触れられていません。

湾岸戦争ではカナダは派兵し、イラク紛争ではカナダは派兵していません。

それはなぜでしょうか。

一九九一年の湾岸戦争は国連決議による多国籍軍への参加でした。

一方二〇〇三年のイラク紛争では国連決議がない武力行使に反対し派兵しませんでした。

ただ武力とドルの力による外交／パワーゲームをするアメリカとカナダは明らかに違います。

カナダはルールに基づく外交が基本です。

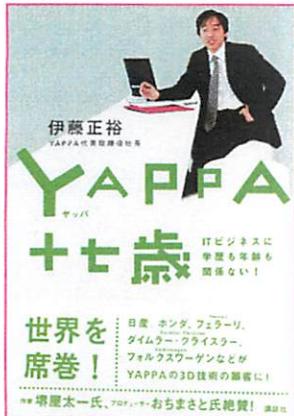
国連の平和維持軍には積極的に参加しています。また経済的にも保険制度が充実しているので、失業率が高くても生活することへの安心感が

強く、将来への不安もなく、非常に犯罪の少ない社会が実現されています。行政改革も増税ではなく、歳出削減と単年度会計の見直しという国が痛みを伴う形で成功しています。日本では実質的な構造改革が進まず、政官の無駄が減ることなく、増税で国民のさらなる痛みを強いる政策とは大きく異なります。

生活の質を表す人間開発指標（一人当たりのGDP、平均寿命、就学率、識字率などをもとに算出）ではノルウェー、オーストラリアにいで世界第三位。ちなみに日本は第九位。ビジネス投資環境（今後十年間新規ビジネスを開始すると仮定して、税引後の人件費、輸送費、施設費などから算出）でもトップクラス。日本は最低ランク。

しかし起業しにくく、コストがかかるこの日本でも素晴らしい起業家が沢山現れています。

十七歳で社長！というとやっぱり驚きます。



YAPPA 17歳
伊藤正裕著 講談社

自分が十七歳の時は朝から晩までテニス漬けで、とても事業を起こそうとは考えられませんでした。十七歳で起業して今やダイムラー・クライスラー、ホンダ、フェラーリ、日産までが彼の顧客です。彼の会社の3D技術によつて、今の結果だけをみれば順風満帆にみえます。

しかし群がる詐欺集団と戦つたり、手強いユダヤ商人との契約など波乱万丈です。肩書きと経験、実績がものを言う日本では学歴もなく、若干十歳の男子が実績を積むのは並み大抵ではありません。

しかし彼はそれを乗り越え、起こした小さな会社を大きく成長させています。

本書は実に素直な文章で書かれています。この素直な感性が彼の成功の鍵だと思います。

彼の経営理念は「目先の利を追わない」ということで。ベンチャーカンパニーにとっては目先の利益ほど大事なものはないとも思われますが、彼の眼には遙かに遠い未来社会が映っています。

日本の技術力、巧の技は素晴らしいと思います。ITという先端技術の話とは変わりますが、日本でイルカに人工尾ヒレを付けることに成功しています。

イルカほど人に愛される生き物はないでしょ。一度でもイルカの泳ぐ姿を見たらその優雅さに驚きます。そしてイルカの眼差しは独特です。慈愛に満ちている、というのでしょうか？

イルカほど人に愛される生き物はないでしょ。一度でもイルカの泳ぐ姿を見たらその優雅さに驚きます。そしてイルカに人工尾ヒレを付けることに成功しています。

技術とアート、そして人々の熱意がついに人工尾ヒレを完成させます。

そしてアーティスト造形作家の薬師寺一彦が加わります。

技術とアート、そして人々の熱意がついに人工尾ヒレを完成させます。

泳ぐことを忘れたイルカは再び泳ぎを取り戻し、高く高くジャンプまでできるようになります。



もういちど宙へ
岩貞るみこ 講談社

お大師さまの言葉

優れた棟梁は、材木それぞれの曲直、性質を生かして家を建て
優れた人は、人それぞれの性質を奪うことなく 適所に配して人を生かす

昔の民家を見ると高い天井の太く曲がった梁が見えました。木を曲がつたまま使っていますが、それによつて強い力で家を支えています。

もし無理に木を真直ぐにしては、木の本来の力が發揮できません。

人も同じです。適材適所。必ず人には優れたところがあります。その優れたところを見い出し、生かすことが上に立つものの指命です。

日本中リストラの嵐が吹き荒れ、一番仕事ざかり、活躍できる中高年がリストラされています。

物も大量生産、大量消費、そして大量廃棄されゴミの山が増え続けています。

実にもつたいない事です。

まだまだ使える建物が壊され、年を経たいい味のある家具が捨てられています。

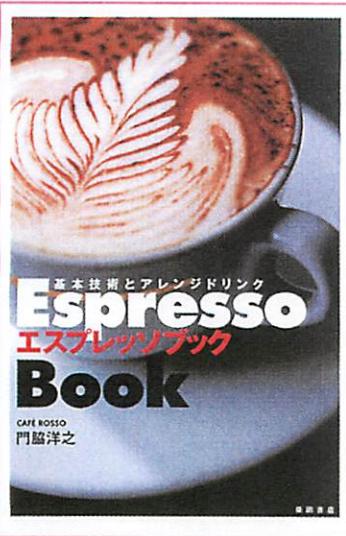


『パリ左岸のピアノ工房』

T.E. カーハート
新潮クレストブック

『パリ左岸のピアノ工房』という素敵なお本があります。小さなピアノの修理工房、そこでは若き職人がまるで魔法のように古いピアノを再生させています。ベートーヴェンが弾いた十八世紀のピアノから、最新式、そして最高峰のイタリアの名器ファツオーリまで。読むだけで心が暖かくなる、失った大切なものの記憶が蘇ります。現代のパリの名工を紹介したノンフィクションです。

人の暖かさ、物の大切さを再発見できます。



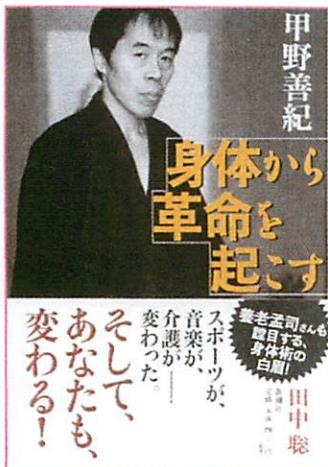
『エスプレッソブック』

門脇洋之

柴田書店

イタリアの高速道路のサービスエリアで飲んだ一杯のエスプレッソの味が忘れられません。美味しいエスプレッソが日本でも飲めるようになりました。著者は世界バリスタ選手権二位の実力者です。お店は島根県安来市の国道沿い。そのお店に日本中から彼のエスプレッソを飲みに人が集まります。

彼がバリスタを目指した経緯から開店までの苦労、そして美味しいエスプレッソのバリエーションの入れ方まで、盛り沢山の楽しい一冊。



『身体から革命を起こす』

甲野善紀 田中 総

新潮社

お大師さまは「即身成仮」を説きました。世の中も身体性の重要さによりやく最近気付きはじめました。

明治以降近代化の中で失われた、日本人が培ってきた独特的の身体性が明らかにされます。なぜ飛脚は一日に二百里も走れたか？なぜ戦国時代の軍隊が思い甲冑をつけて長距離を移動できたか？そんな疑問を持っていましたが、本書を読むと理解できます。現代のスーパーアスリートだけではなく、介護にまで有効な動きが分かります。

本書の「歩行が変われば思考も変わる。」は必読です。

『進化しすぎた脳』

池谷裕二

朝日出版社

身体も大事ですが脳も大切です。少し前までは脳細胞は二十歳を過ぎれば退化する。筋肉だって三十歳を過ぎればつかないと言われていました。しかし最近の研究では脳も筋肉も使えるほど活性化できることが分かってきました。

本書は著者が高校生に語りかけた、脳についての講義の記録です。とても分かりやすく、大胆に脳について語っています。

人の脳は柔軟性を生むために発達しました。脳や心が固くなってしまっても大丈夫。本書を読むと再び脳も心も柔らかくなります。



次号 特集 世界遺産登録 高野山 熊野 吉野

Editor ABE RYUJU Art Director and Photographer/TATSUKI Editorial Staff/ SAMURO MIWA SHU TACHIBANA

EDITORIAL OFFICE CHOEN-JI S.H.C Making Mechanic Printing KORINKAKU

〒157-0076 東京都世田谷区岡本1-20-1 電話 03-3707-1228 フaxシミリ 03-3707-1221

Shingon Horonic Irowanioedo 2